

サポート

No. 197

令和5年12月12日発行

県教育庁特別支援教育課指導チーム

祝 天王みどり学園 創立20周年 かかやく未来に「はばたけみどりっこ」

若美町立(当時)払戸小学校内に設置された県立秋田養護学校南秋分教室を前身とし、平成15年に開校した本校は、今年度創立20周年を迎えました。10月28日には120名の来賓、保護者の皆様に参列していただき、創立20周年記念式典を挙行了いたしました。

記念式典では、児童生徒を代表して生徒会長が挨拶する中で、今年度の地域とつながった学習活動を紹介し、これまでの地域の皆さんの支援に対してお礼を述べました。



【児童生徒代表挨拶】

記念式典終了後のアトラクションでは、様々な記念事業を中学部、高等部代表生徒が映像とともに紹介しました。また、高等部3年生が昨年度から制作し、潟上市在住のピアニスト・作曲家の佐市さんにアレンジ、歌唱指導をしていただいた創立20周年記念曲「風をうたおう」を全校合唱しました。7月の記念音楽会、10月の記念学園祭でも歌い、練習を続けてきた曲を全校児童生徒が心を込めて歌いました。また、わらび座のワークショップを利用して指導いただき、記念学園祭で披露したミュージカル「ライオンキング」のオープニング部分を中学部生徒が、男鹿市の太鼓奏者である岩澤将志さんが作曲し、指導いただいた和太鼓演奏「風神」を高等部生徒が披露し、会場を盛り上げました。

記念式典の記念品として、中学部、高等部の作業学習で製作した「杉の箸と箸置き」「ぐい呑みと小箱」のセット、小学部児童全員が一文字ずつ担当したクリアファイルを来賓の皆様に差し上げました。また、高等部生徒が植栽し、「20」をかたどった季節の花々が1年間玄関を彩りました。10年前のタイムカプセルは高等部2・3年生が開封し、小学部1・2年生がメッセージと映像を封入しました。10年後に開封するまで、児童生徒玄関に飾ります。



【記念事業紹介】

地域の皆様に支えられ、児童生徒一人一人が主体的に自分の役割に取り組んだ創立20周年記念事業となりました。今後も地域とつながり、一人一人が輝く学校を目指していきます。

「私たちは一つの大きな木、心の奥の幹につながっている」(創立20周年記念曲より)

(天王みどり学園 教頭 高橋 省子)

インクルーシブの圃

このコーナーでは、インクルーシブ教育システムの推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介していきます。

令和4年度から、小・中学校等における特別支援教育に係る研修を「通常の学級」、「通級による指導」、「特別支援学級」の学びの場ごとに設定し、ニーズに対応した研修を実施しています。

「通級による指導実践研修」は、通級による指導を担当している教員の実践的指導力の向上とともに、地域の特別支援教育の推進を図ることを目的とした研修です。今年度は全県で12回の実施がありました。このうち、能代市立湊城南小学校の実践を紹介します。

小・中学校等における特別支援教育の充実に向けて 通級による指導実践研修～能代市立湊城南小学校の実践から～

9月15日に行われた能代市立湊城南小学校の通級による指導実践研修の紹介をします。授業者の「言葉遊びや体験活動を通してたくさんの言葉に触れ、語彙を豊かにする活動を大事にしたい」という思いが伝わるとともに、ICT活用も含めた体験活動の工夫がたくさん見られた授業でした。

「やってみよう！～〇〇〇・□□□ってどんな感じかな～」という題材名で、「多い・少ない」「柔らかい・固い」などの反対語を取り上げ、本時は「長い・短い」とい



【ICT活用で長さの体験】

う様子を言葉や動きで表現する授業でした。導入のウォーミングアップでは、タブレット端末を使ったビジョントレーニングと、制限時間内に言葉を思い浮かべて人形を渡し合うしりとりを行いました。楽しんで取り組めるようゲーム性を高めたことで、参観者がいて緊張していた児童はすぐに活動に集中し授業に引き込まれていきました。

展開では、最初に、図鑑を提示して様々な長いものに触れ、図鑑の中から修学旅行で行く青函トンネルを取り上げ、タブレット端末で電車が走行する疑似体験映像を視聴することで時間の長さを体験できるようにしました。次に、絵本「ながすぎるへび」の読み聞かせを行い、ロール状に巻かれた素材の先端に蛇の頭を付け、その頭を持ってロールを解いて長い蛇を作る活動を行いました。児童は廊下まで出て「長すぎる」を表現し蛇を作成しました。最後は作った蛇を参観者たちに巻き付けて絵本の再現をしながら楽しみました。

本研修は、本校職員のほか、特別支援教育アドバイザー、地域の通級による指導担当教員が参集



【蛇制作で「ながすぎる」を表現】

したほか、本校交流校である東京都豊島区立朋有小学校がオンラインで参加して行われました。協議には、学級担任も参加し、一人一人がねらいを達成するための学習過程の在り方や、通級による指導での学習を通常の学級の指導にどう生かしていくかなどについて熱心に話し合われました。通級による指導の充実に向けて、本校職員だけでなく、地域全体の研修の機会ともなっていました。

(北教育事務所山本出張所 指導主事 鎌田亜希子)

高等学校における通級による指導について ～県立横手高等学校定時制の取組～

平成30年4月から高等学校における通級による指導が制度化されました。本校では、令和3年4月より通級による指導を開始し、今年度で3年目となります。本校における「通級による指導」は、学校設定科目「コミュニケーション基礎」として、教育課程に明確に位置付けられた指導です。

現在は11名+α（相談対応）の生徒が利用し、週1回の指導を行っています。それぞれが発達障害等の診断があり、コミュニケーションや対人関係など学校生活において課題が見られます。特に本校では小中学校で不登校を経験してきた生徒が約7割を占め、特別支援教育と併せて不登校の予防や再発防止の支援も重要となっています。また、個別指導場面ではスキルを発揮できるのに、実際の学校生活ではうまくいかない生徒が多い状況です。このため「ホームワーク（写真参照）」の課題に取り組みながら、学習した知識や技能を日常生活で発揮できたか、生徒がどのような工夫をして他者と関わることができたのかなど、振り返りに活用しています。

ホームワークを通して生徒からは、「通級で学んだ相談スキルを生かして修学旅行に向けての不安を解消した。」「通級の時間だけは何とか登校して後期からリスタートを切ることができた。」などの声を聞くことができました。（横手高等学校定時制課程 教諭 藤谷 淳一）

02 不安の気持ちをキャッチしよう HomeWork	
クラス・番号 名前	
●「ドキドキする」「心配だな」「ちょっと不安かも」という気持ちをキャッチしてみましょう。 ●家の人や友達などの身近な人に、不安な気持ちになる時のことを聞いて、それを書いてOKです。 ●不安な気持ちが見つからない日は、その他の気持ちでOKです。	
いつ・どこで・何をして どんな気持ちになったのか？	不安レベル
○月△日 課題を忘れたことに気付いて、先生に怒られないか不安になったけど、学校に書いてから急いでやって提出できたのでホッとした。	●●●●○○○○○
通級へ通えるようになったが、学校へ来るのができた。	●●●●●○○○○○
【ホームワーク（例）】	

事業紹介「心のバリアフリー推進モデル地区における障害理解の推進事業」～障害理解の推進に向けた取組～

「心のバリアフリー推進モデル地区における障害理解の推進事業」が令和5年度からスタートしました。令和6年度までの2年間、大仙市をモデル地区として、障害理解の推進を目的に取り組みます。この事業の目的は、小学校と特別支援学校の交流及び共同学習に関連付けた障害理解授業やPTA研修会等の実施により、小学生やその保護者の障害理解を推進することです。

本事業推進のモデル校である、大仙市立内小友小学校と県立大曲支援学校の実践について紹介します。内小友小学校と大曲支援学校の交流会「ハローの会」は、長い歴史があり、今年度で29年目となります。今年度の「ハローの会」は、6月と11月に行われ、学年ごとに相手校に出向いたり迎えたりしながら交流を楽しみました。実際に会って交流するのは二日間ですが、事前学習をオンラインで行い、事後学習に手紙を交換するなど、お互いのことを知る機会を継続的にもち理解を深めています。



【ハローの会「ミニミニ運動会」】



【ハローの会「いっしょに歌おう」】

7月6日の内小友小学校のPTA学習参観日に、4年生は、「ハローの会」の事後授業を行いました。授業では、11月の会に向けて、もっと仲良くなるにはどうしたらよいか、グループに分かれて話し合う活動が行われ、保護者の皆さんも活発に話し合う様子を参観されていました。今回の交流を経て、来年度はどんな交流になるかとても楽しみです。

（特別支援教育課 指導チーム 指導主事 長崎雪子）